

大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

あさのけじゅうたく
浅野家住宅



建物全景（西から）



建物全景（東から）



歴史的な景観のまちなみ



まちなみと顕証寺の大きな壘

所在地： 八尾市久宝寺 5 丁目
 最寄駅： JR大和路線「久宝寺」駅
 北へ約500メートル 徒歩約8分
 見学： 不可
 TEL： 不可
 出典： 八尾らしいすまいづくり
 （発行・八尾市）

浅野家の住宅は、久宝寺寺内町の顕証寺のすぐ西側に位置し、寺内町の中でも特に伝統の様式をよく残した町家が両側に建ち並び、落ち着いた歴史的景観をつくっている。

嘉永元年の祈禱札が発見され江戸時代末期の建築と推測される「主屋」は、明治末期から大正初期ごろの増改築を経て現在のような複雑な間取りとなっているが、もとは整形「四間取り」のシンプルな住宅であったと思われる。外観は階高の低い「つし2階（中2階）」で、「つし」には「むしこ窓」を開き、両妻側に「袖うだつ」を設けている。腰板壁を除く他はすべて木部を「しっくい」で塗り込めた大壁造りとし、防火性を高めている。一方「クチノマ」と「ザシキ」の出格子はそれぞれ調子を変え変化を持たせている。

平面的には、「ニワ」の「ダイドコ」側には1間幅の「ヒロシキ」があり、かつてはここが家族や使用人の食事場であった。桁行きの半分が「土間」になっている。「土間」の奥には「かまど」を設け、煙が部屋の方に流れないように「ケムリカエシ」と呼ばれる梁が掛けられている。小屋組は「登り梁」の構造になっており、「つし2階（中2階）」は大きな物置の空間となっている。また、平成16年11月に主屋・乾蔵・巽蔵・東納屋・南納屋が国登録有形文化財に指定された。

このように古い民家では、新しい生活に合うように改造される。また、日本の伝統的な構造である「木造軸組構法」はそのような改造にも対応しやすい特徴がある。（建築基準法などの法的な解釈は苦勞するところであるが?）主屋の他、離れ座敷・土蔵・洋館などの時代とともに増改築を重ね受け継がれてきた外観には、変化に富んだ味わいがある。現在は、建築当初の修復改修が完了しており、洋館などは姿を消している。（新田俊明）